

スピーカーアキュライザーの導入(28)

—総合試聴—

1. 始めに

LINN LP-12、Garado 401 および Tohrens TD124 のメンテナンスに訪問していただいた LINN ショップに、現状での試聴をお願いしました。同時にサブシステムの入れ替えをお手伝いいただきました。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

LP-12 はスピンドルの注油とともに以下に述べる総合的な調整と改造を、Garad401 はスピンドルの注油を、Tohrens TD124 はスピンドルの注油とアームリフターの調整およびインシュレーターを Garad401 と同じジャイアントマグナライザーに交換しました。

LP-12 の調整と改造の概要は以下のとおりです。

- ・モーター周りの電源の調整
- ・レコード由来の配線からの振動対策
- ・カートリッジ、アーム、ターンテーブルの動きのシンクロナイズ
- ・アースラインの調整
- ・ターンテーブル回転数の調整

LP-12 のメンテナンスの前後に聴きなれたアナログ盤で確認していただきました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

フリードリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

EMI EAC-55004

グスタフ・マーラー 交響曲 1 番

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮シカゴ交響楽団

また、Tohlesn TD124 で下記の 78 回転盤を聴いていただきました。

ウルトラアートレコード UA1004

Oh lady be good 他

小川理子他

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

LP-12のメンテナンスの前には、バッハの無伴奏パルティータとマーラーの1番を聴いていただき、その後下記を順次聴いていただきました、

バッハの無伴奏パルティータは、倍音の伸びと胴鳴りがしっかりしてきましたのでボウイングの様子が把握しやすくなります。

マーラーの1番は、オーケストラ全体の解像度が向上し、個々の楽器の質感が明瞭になっています。

また、ヘンデルのメサイアでは、ソプラノのヴィブラートが、より明瞭になり、弦や木管の質感が向上し、歌手とソロ楽器とオーケストラや合唱の位置関係も明瞭になります。

さらにご持参いただいた鈴木章治とリズムエースの盤では、個々の楽器の質感が明瞭であり、スイング感が気持よく聴けました。

Tohrens TD124では、メンテナンス後に小川理子の78回転盤を聴いていただきましたが、スイング感もあり、楽器の位置関係やマイクセッティングの様子まで把握できます。

LINN ショップには仮想アースとスピーカーアキュライザーの説明は簡単に行いましたが、メンテナンス前でも以前よりレベルが上がっており、今回の調整の方向性を明確に認識した上でさらに上乗せできる方向の調整を行えたというご感想でした。

この他、実施したサブシステムの入替えについては、別途報告いたします。

4. まとめ

これまでのスピーカーアキュライザーや仮想アースの対策をベースに LINN LP-12、Garad401 および Tohrens TD124 のメンテナンスを行い、その結果を確認するとともにサブシステムの入替えを行いました。

以上